

会員のページ

アマモ場についてのビデオ紹介と頒布のお知らせ —海の草原～アマモ場回復のために—

浅海域の砂泥底に広がるアマモ場は稚仔魚の隠れ家や餌場として重要で、沿岸漁業においてはその存在が漁獲量に直接の影響を与えることもある。しかしながら、日本各地のアマモ場は沿岸域の埋め立てや汚染によって次々に失われてきた。このビデオは、アマモ場の回復のために立ち上げられ成功をおさめたプロジェクトについての記録である。

この研究プロジェクトでは、やみくもにいろいろな復元技術を試してみるのではなく、まずはアマモ場が存続できない要因が何であるのかについての解明に取りかかり、その後その制限要因をいかに緩和するかについての対策を講じている。「アマモ場の再生を行う」というただひとつの共通の目的のもとに、生物学者のみならず海岸工学者や漁業者等がグループを作り、共同で研究調査に関わったということも特筆に値する。

ビデオの企画者は社団法人マリノフォーラム 21 の浅海域緑化技術開発グループ（幹事：森田健二氏）である。アマモ場回復のモデル地区となったのは、以前から地元漁協組合員によるアマモ場復元の試みが続けられていた岡山県日生町で、平成9年から平成13年に調査と試験が行われた。

アマモ場消失に働く複合要因についての検討に基づいて、プロジェクトのスタートとともに3つの課題設定が行われた。まず、平成10年には、アマモ場の光環境についての調査が行われ、純生産量が光環境の評価に役立つことが明らかとなった。次の年には、水理環境についての調査が行われ、波や流れの強度変化が気象条件や海底地形と併せて解析され、アマモの生育可能な波高の限界値が求められた。続いて底質環境についての調査が行われた。地下茎を有するアマモの支持基盤としての調査から、好適な底質粒度が求められた。これらの調査結果を踏まえて、復元を要する海域において何が制限要因になっているのかを見極めたうえで、それぞれの場所に最適な制限要因緩和策が講じられていった。それによって無駄の少ない効率的な浅海緑化を行うことができたのである。

新しい播種技術についても紹介されている。土嚢を用いたマット法、コロイダルシリカによる播種、粘土利用の移植法が紹介され、復元すべき海底の状況よっての使い分けが行われている。このビデオにより、アマモ場再生技術の最前線に触れることができる。また、プロジェクトの立ち上げから

課題設定、調査と復元作業に至る流れから、異分野間にまたがる基礎調査を野外での応用技術に結びつけていく作業過程の良き手本を見ることができる。藻類学会の会員の方々のみならず、藻場造成に関わる研究機関や企業、環境問題についての研究者、海洋土木工学の研究者、群集研究などを行う海洋生物学者などの方々にも是非手元に置いていただきたいビデオである。

ラストシーン近くで流れる瀬戸内海区水産研究所の寺脇利信氏による次のコメントは、藻場の回復技術というものを今後どのように理解して人々が使っていくべきかについての示唆を与えている。「アマモ場回復のために現地の海底で行われる技術についてはこのように着実に進歩してきています。しかし、これらの技術の効果を飛躍的に高めるためには、汚れないきれいな水の海であることが最も大切なこととなります。アマモ場回復という問題は私達の普段の生活と深く関わっているのです。」

このビデオの他に、磯やけ問題についての啓蒙ビデオおよびガラモ場植生の回復についての実地試験についてのビデオも頒布中である（いずれもVHS）。

1. 「海の草原～アマモ場回復のために」(20分)
2. 「磯やけて何?～長崎県野母崎町を訪ねて」(20分)
3. 「豊かな暮らしのために～自然の藻場にならう階段藻礁」(23分)

ビデオ入手方法

申し込み（FAXに限る）：FAX 03-5202-6066 「毎日EVRシステム内 藻類絵はがきの会ビデオ係」
 申込書記入事項：希望ビデオのタイトルと本数・氏名（振込者名）・住所・電話番号・FAX番号
 料金（税・送料700円込）はいずれも、1本3,360円、2本5,985円、3本8,610円
 振込先：三和銀行東京営業部 当座預金口座 005902
 （株）毎日イーヴィアール・システム

振込手数料は申込者負担。振込確認次第ビデオを発送。
 問合せ先：毎日EVRシステム 佐藤建男 Tel 03-5202-6060

（青木優和 筑波大学生物科学系下田臨海実験センター）